

日本周産期・新生児医学会 第40回周産期学シンポジウム演題募集要項

テーマ：周産期医療における生育と成育の限界について考える

会 長：板倉 敦夫（順天堂大学医学部附属順天堂医院産科・婦人科）

会 期：2022年1月14日（金）、15日（土）

会 場：パシフィコ横浜

演題募集

現在、我が国において「胎児の母体外生存可能時期（生育限界）」は妊娠22週（以降）とされています。この生育限界は1953年には妊娠28週でしたが、1976年に妊娠24週に変更されました。そして、1990年に現行の妊娠22週となり、生育限界は約半世紀をかけて周産期医療の発展とともに変化してきました。また、重篤な先天性疾患を合併する早産児に対する医療も進歩し、救命・生存可能な時代となりました。

母体外での生存が可能な「生育限界」とは別に、成長・発達に着目した「成育限界」という概念もあります。成育限界を考える上では、長期的な身体成長・発達とともに神経学的予後も重要な要素となります。また、幼児期から学童期の自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害も注目すべき問題となってきています。

生育限界が妊娠24週と定められていた時期の1983年に開催された第1回本シンポジウムは、「胎児の機能的成熟-超未熟児の生育限界をめぐって-」をテーマとして議論が交わされました。その後約40年間、周産期医療の進歩にともない、超早産児の救命率は著しく改善しました。このような背景の中で、第40回を迎える周産期学シンポジウムのテーマを「周産期医療における生育と成育の限界について考える」としました。本シンポジウムでは、早産児の在胎期間も含めた周産期医療における生育と成育の限界について、多角的に議論する演題を広く募集します。また、早産期の重篤な先天性疾患を合併した児の娩出時期やその限界についても議論します。なお、今回は胎児・新生児を対象とし、母体の生存や救命については対象としません。

周産期学シンポジウムでは、発表の約1年半前に応募を受け付け、運営委員とともに研究計画等を吟味し、内容を発展させます。このような特性上、既報の研究結果のみではなく、新たな知見を期待できる発展性のある意欲的な研究課題の応募を希望します。また、基礎研究の演題も受け付けますが、臨床応用への道筋や客観的な評価が明確である演題を望みます。

キーワード

在胎期間、胎児発育、臓器発育、胎児超音波、合併症妊娠、妊娠管理、妊娠高血圧症候群、頸管無力症、胎児発育不全、胎児水腫、人工妊娠中絶、流産・早産、帝王切開、胎児治療、人工子宮、周産期感染症、出生体重、蘇生、バイタルサイン、新生児集中治療室、臓器成熟、人工呼吸器、肺成熟、先天性心疾患、動脈管開存症、母乳、栄養管理、腎機能、頭蓋内出血、脳室周囲白質軟化症、壊死性腸炎、限局性腸穿孔、敗血症、慢性肺疾患、細胞治療、骨代謝性疾患、貧血、外科手術、麻酔、フォローアップ、脳画像所見、未熟児網膜症、難聴、脳性麻痺、低身長、慢性腎臓病、精神運動発達遅滞、神経学的後遺症、リハビリテーション、発達評価、発達障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、呼吸機能、肥満、生活習慣病、母体保護法、生命倫理、治療差し控え、話し合いのガイドライン

応募要項

1. 応募書類：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書*」の3点です。下記URLよりデータをダウンロードしてください。

1) 応募用紙：https://jspnm.com/syukai/doc/oubo_40.xlsx

2) 抄録用紙：https://jspnm.com/syukai/doc/syoroku_40.xlsx

3) 発表者の利益相反自己申告書：<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rs.j2.pdf>

*利益相反指針及び指針細則は以下のURLを参照ください。

<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rss190816.pdf>

2. 応募演題の注意点

- 1) 同一施設からの応募数に制限はありませんが、同一応募者は複数の演題を応募できません。
 - 2) 応募者は原則として会員（応募～発表時まで）かつ単名に限ります。なお、共同研究者等の名前を示す場合は、演題発表の際に謝辞等として示してください。
 - 3) 過去に周産期学シンポジウムで応募演題を2回以上発表した会員は演題応募できません。
 - 4) 前向き・後ろ向き研究に関わらず、応募には施設の研究倫理審査委員会・Institutional Review Board等への申請が済んでいることが必要で、最終選考（2021年6月予定）までに承認が必須です。
3. 応募方法：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書」を、E-mail の添付文書として学会事務局宛、件名は「第40回周産期学シンポジウム応募演題」として送信ください。

4. 応募用紙

- 1) 下記【「応募用紙.xlsx」への入力に関しての注意】に沿って作成ください。
- 2) 応募用紙のファイル名は「発表者名-応募用紙.xlsx」としてください。

5. 抄録本文

- 1) 抄録本文は、目的～考察：1,600字以内＋今後の研究計画（シンポジウムでの発表までに実現可能な内容）：200字以内（文字数厳守）、図表不可とし、MS Excel形式で保存してください。
- 2) 文字数のカウントは、それぞれの枠下に返された数とします。
- 3) 目的、方法、結果、考察、今後の研究計画の順に記載ください。
- 4) 個人情報や生命倫理等、特に倫理的配慮を必要とする研究である場合は、行った具体的配慮について記載ください。
- 5) 抄録本文のファイル名は「発表者名.xlsx」としてください。

6. 発表者の利益相反自己申告書

- 1) 【利益相反に関する自己申告書の提出】に沿って作成ください。
- 2) 利益相反自己申告書のファイル名は「発表者名-利益相反.pdf」としてください。

7. 演題送信先：info@jspnm.org（日本周産期・新生児医学会事務局）

8. 応募締切：2020年9月1日（火）13:00 厳守

9. 問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 メジカルビュー社内

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

*演題受付後、10営業日以内に事務局より「受付メール」をお送りいたします。連絡がない場合は事務局に問合せください。

*応募演題は周産期学シンポジウム運営委員会による書類選考、一次選考、最終選考を行い、2021年6月までに第40回 周産期学シンポジウム口演演題として決定する予定です。

*書類選考：演題応募者には、2020年11月6日（金）までに書類選考結果をお知らせいたします。

*一次選考：書類選考通過者は、2020年12月4日（金）の一次選考会（東京）に出席いただきます。一次選考会では、スライドを用いたプレゼンテーション（7分間：時間を厳守して下さい）と、運営委

員との質疑応答（8分間）を行います。一次選考会終了後、選考結果をお知らせいたします。応募者が出席できない場合は、演題が不採択となることがあります。

*最終選考：一次選考通過者は、2021年6月の最終選考会（東京）で再度スライドを用いたプレゼンテーション（10分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。最終選考会終了後、最終結果をお知らせいたします。

【「応募用紙. xlsx」への入力に関する注意】

1. 必要事項はすべて入力ください。
2. 非会員の方は応募の時点で入会手続きをお済ませください。学会ホームページより手続きできます。

問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

<https://www.jspnm.com>

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

【利益相反に関する自己申告書の提出】

日本周産期・新生児医学会が定めた利益相反指針及び指針細則に則り、「発表者の利益相反自己申告書（様式2-1）」の提出が必要となります。

原則として利益相反の有無は演題の採択には影響しません。

演題が採択された場合、利益相反状態の有無にかかわらず、発表演題の最初のページ（スライド）に利益相反状態を明記してください。記載例を以下に示します。

◆利益相反状態にない場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

◆利益相反状態にある場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態は以下のとおりです。

- ・報酬額/ ○○製薬株式会社
- ・講演料/ □□製薬株式会社
- ・原稿料/ ◇◇製薬株式会社
- ・研究費・助成金（寄付講座所属）/ 株式会社××

2020年2月

日本周産期・新生児医学会
周産期学シンポジウム運営委員会